

令和5年度

**利尻富士町教育委員会点検・評価報告書
【令和4年度分】**

令和5年12月

利尻富士町教育委員会

I はじめに

1 趣旨

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和4年度の教育行政事務の管理執行状況について点検・評価を行い、報告書を議会に提出するとともに、今後の効果的な教育行政の推進と町民皆様への説明責任を果たしていくために、その結果を公表するものである。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況等のほかに、「教育行政執行方針」の施策に基づく次の主要な事務事業の実施状況について対象とした。

- 1 新たな社会を生きる力を育む
 - ① 義務教育9年間を通じた資質・能力の育成
 - ② 新しい時代の学びの実現
 - ③ 未来への道を切り拓く力の育成

- 2 生涯を通じ個性が輝き豊かさを実現できる教育と学習
 - ① 社会で生きる「知・徳・体」の育成
 - ② ふるさとを支え魅力ある学びの提供
 - ③ 地域の共生と多様な社会への対応

3 点検・評価の方法

「教育委員会の活動状況」については、教育委員会会議の開催状況や会議に諮られた議案及び委員が出席した行事等の点検を行なった。

「主要な施策の点検・評価」については、「令和4年度教育行政執行方針」に掲げられた事業の内容や取組状況を取り上げ、自己評価と今後の課題について点検・評価を実施した。

Ⅱ 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催及び審議状況

令和4年度における利尻富士町教育委員会の会議は10回開催され、次のとおり審議等を行なった。

開催日	出席委員	付議案件等
第4回 4月19日 (火)	3名	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般報告事項 <p>議案第10号 専決処分（利尻富士町社会教育委員の委嘱）の承認を求めることについて</p> <p>議案第11号 専決処分（利尻富士町スポーツ推進委員の委嘱）の承認を求めることについて</p> <p>議案第12号 専決処分（利尻富士町文化財専門委員の委嘱）の承認を求めることについて</p> <p>議案第13号 利尻富士町特別支援学校通学等助成事業実施要綱の制定について</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務局組織図について ・利尻富士町行政組織図について ・令和4年度学級編成について ・令和4年度児童生徒名簿について ・令和4年度教職員名簿について ・令和4年度小中学校担任一覧について
第5回 6月10日 (金)	4名	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般報告事項 <p>議案第14号 専決処分（令和4年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算（5月補正））の承認を求めることについて</p> <p>議案第15号 令和4年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算（6月補正）について</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設事業進捗状況について ・利尻高校配置計画について ・第57回北海道市町村教育委員会研修会について ・利尻富士町育英資金運営審議会委員の委嘱について

開催日	出席委員	付議案件等
第6回 8月12日 (金)	3名	報告事項 ・一般報告事項 議案第16号 令和4年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算(8月補正)について 議案第17号 令和4年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について 議案第18号 令和4年度利尻富士町通学自動車の利用者認定について 議案第19号 学校職員の任免について その他 ・児童生徒、教職員について ・教育委員会事務局について
第7回 9月13日 (火)	4名	報告事項 ・一般報告事項 その他 ・児童生徒、教職員について ・建設事業進捗状況について
第8回 10月27日 (木)	4名	報告事項 ・一般報告事項 その他 ・児童生徒の事例について ・教育委員会の会議の議事録の公表について ・利尻高校公開授業について ・利尻富士町PTA連合会「教育講演会」について ・市町村教育委員会新任委員研修会について ・小中一貫教育視察報告について
第9回 11月21日 (月)	3名	報告事項 ・一般報告事項 議案第20号 専決処分(利尻富士町教育支援委員会委員の委嘱)の承認を求めることについて

開催日	出席委員	付議案件等
		<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内児童生徒、教職員について ・教育委員会事務局機構図について
<p>第10回 12月6日 (火)</p>	<p>3名</p>	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般報告事項 <p>議案第21号 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について</p> <p>議案第22号 令和4年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費補正予算（12月補正）について</p> <p>議案第23号 利尻富士町教育委員会点検・評価報告書について</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・育児休暇者（育児休暇延長）について ・婚姻による記録事項変更について
<p>第1回 1月30日 (月)</p>	<p>4名</p>	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般報告事項 <p>議案第1号 専決処分（利尻富士町学校運営協議会委員の委嘱）の承認を求めることについて</p> <p>議案第2号 学校職員の任免について</p>
<p>第2回 3月6日 (月)</p>	<p>3名</p>	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般報告事項 <p>議案第3号 利尻富士町教育委員会会議規則の一部改正について</p> <p>議案第4号 利尻富士町学校管理規則の一部改正について</p> <p>議案第5号 利尻富士町特別支援学校通学等助成事業実施要綱の一部改正について</p> <p>議案第6号 令和4年度一般会計歳入歳出教育費補正予算について</p>

開催日	出席委員	付議案件等
		議案第7号 令和5年度利尻富士町教育行政執行方針について 議案第8号 令和5年度利尻富士町一般会計歳入歳出教育費予算について 要望第1号 北海道利尻高等学校要望書について その他 <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度離任式について ・令和5年度就学 学齢児童名簿について ・婚姻による記録事項変更について ・鴛泊中学校いじめ事例調査報告書について
第3回 3月24日 (金)	4名	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・一般報告事項 議案第9号 令和5年度利尻富士町通学自動車の利用者認定について 議案第10号 学校職員の任免について その他 <ul style="list-style-type: none"> ・第4回教育委員会、教職員着任式について ・令和5年度入学式について

* 議事録（第8回～）は下記より閲覧可能



2 教育委員会会議以外の活動状況

利尻富士町教育委員会委員は、次のとおり出席した。

※ 教育長を除く

期 日	内 容	開催場所	出席委員
4 月 5 日	利尻富士町教職員着任式	利尻富士町役場	寺島、山澤
1 2 月 2 日	中学生主張大会	鴛泊中学校	成田
1 2 月 5 日	教育委員学校訪問	鴛泊地区小中学校	寺島、山澤、 成田
1 2 月 6 日	教育委員学校訪問	鬼脇地区小中学校	寺島、山澤 成田
1 2 月 1 2 日	学校給食組合教育委員会	利尻富士町役場	佐藤
1 月 4 日	二十歳の集い	総合交流促進施設 りぷら	佐藤、寺島、 成田
1 月 1 8 日	宗谷管内教育委員研修会 (web)	利尻富士町役場	成田
3 月 6 日	学校給食組合教育委員会	利尻富士町役場	佐藤、寺島
3 月 2 4 日	利尻富士町育英資金運営審議会	利尻富士町役場	佐藤、成田
3 月 2 4 日	総合教育会議	利尻富士町役場	佐藤、寺島、 山澤、成田

Ⅲ 主要な施策の点検・評価

1 新たな社会を生きる力を育む

子どもたちを取り巻く現代社会は、変化のスピードが短く、自立して生きていく上で新たな資質・能力を身に付けることができるよう、学びを保障する取組を継続することが必要である。2020年度から始まった新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」を育み、「様々な人の意見を聞き、まとめ、伝える力を育む教育」を推進するため、下記の事項を重点とする。

① 義務教育9年間を通じた資質・能力の育成

小学校と中学校は、児童生徒の発達段階に応じて教育活動が異なるが、学力の向上は長期的な視野で取り組む必要があり、そのためには家庭・地域・行政が一体となって支援することが重要である。義務教育の9年間で着実に学力が積み上がるよう、めざす子ども像の設定、系統性を踏まえた指導的な展開を図っていく必要がある。

(1) 小中一貫教育の推進

鬼脇地区は「施設一体型」、駕泊地区は「施設隣接型」として、義務教育9年間を見通した目指すべき子ども像を共通目標に掲げ、令和5年度導入に向けた推進のため、小中連携のもと、一貫した取組を行うための先進地視察や研修、地域への説明などを実施した。

- ・北広島市、新篠津村への先進地視察（10/5-7）
- ・鬼脇地区 校務連携協議会の開催、学校運営協議会やPTA会議等での説明
- ・駕泊地区 小中連携交流会の開催、コアチームによる協議、小中一貫教育説明会の実施（3/14）
- ・全体構想図の作成、地域や保護者へのアンケート実施による「めざす子ども像」の設定→めざす子ども像「自然を愛する豊かな心と高い知性を持ち、未来を生き抜くたくましい子ども」
- ・導入に伴う学校管理規則の見直し
2学期制（前期・後期）の採用
教育課程：小中で一貫した教育課程を編成できるよう、小学校に中学校併設型小学校、中学校に小学校併設型中学校を設置。
夏季・冬季休業期間について、あわせて50日以内

【評価と課題】両地区の実情に応じた一貫教育の具体的な取組について、小中共通認識のもと、導入に向けた準備を進めることができた。

ただし、令和5年度からの取組が完全な姿ではなく、小中および教育委員会が関係しながら、よりよい一貫教育の姿を模索しながら改善を図ることが課題である。

(2) TT (チーム・ティーチング) の推進

課題をもつ授業における複数教員による指導体制や中学校から小学校高学年への乗り入れ授業(英語、数学、理科など)などを実施した。

【評価と課題】複数教員、専科教員による授業の実践は、学力差を少なくし定着化が図られるよう行われるもので、小学校教諭にとっては負担軽減、中学校教諭にとっては小学生段階からの学力の把握など、お互いにメリットが生まれている。今後の小中一貫教育の根幹をなす各科目の乗り入れ授業についてもより一層の充実を図る必要がある。

② 新しい時代の学びの実現

1人1台タブレット端末を使用した授業は、もはや日常の風景となっている。それに伴い、教職員のICTスキルの向上、子どもたちの探求心へとつながる更なる新しい環境づくりと学びの実現に取り組む必要がある。

また、学校現場が直面する課題は多種多様であり、教員は様々な教育課題への対応を求められている。教員が本来の業務である授業に専念できる環境を整え、子どもたちと向き合う時間を確保することが重要であり、働き方改革の継続的な推進と充実が必要である。

(1) 学校デジタル化推進協議会の活動促進

タブレット端末(グーグルアプリ等)の活用やデジタル教科書、プログラミング教育など各校が抱える課題は、それぞれ異なることから、ICT担当教員と協議しながら実情に応じた研修機会などを実施した。

- ・プログラミング教育とデジタル教科書研修(2/27, 2/28)

【評価と課題】本町におけるICTの活用は、現場の先生方が一丸となり取り組んだ成果となって、安全・安心で持続可能な教育環境の確保につながっている。一方で、各校が抱える課題は異なることから、実のある研修やスキルアップにつながるよう、協議会のなかで共有していくことが課題である。

(2) 教職員の資質・能力の向上、健康管理の推進と環境整備

- ・「学校における働き方改革アクション・プラン」の推進
- ・校務支援システムによる時間外勤務状況の把握と分析、公表
- ・校務支援システム(C4th)、イントラグループウェア(サイボウズ)
- ・電話回線の増設と時間外留守番電話サービスの導入
- ・夏季・冬季休業期間における学校閉庁日の設定
- ・教職員検診の実施、共済組合による各種福利厚生事業
- ・利尻島教育研究会活動に対する支援
- ・教職員住宅の新築(駕泊・鬼脇各1棟)と住宅営繕

【評価と課題】教員の時間外勤務（在校時間）を校長会・教育委員会で具に把握し、一斉退勤日や土日勤務の軽減、学校閉庁日の設定、留守番電話の導入を進めるなど改善を図っている。

さらには、乗り入れ授業や地域人材による学習・校外活動支援など、授業の工夫や時数の見直し、各種研修を通じた実践が課題である。

③ 未来への道を切り拓く力の育成

予測困難な時代に子どもたちの主体的なキャリア形成や自尊心・自立心を高め、子どもたちの夢や希望を育む教育が重要となっている。

（１）学力向上の取組

・全国学力、学習状況調査の実施（4/19）

単位：％（平均正答率）

小6（12名）	国語	算数	理科	全体
本町（北海道）	76.0(64.4)	71.0(61.1)	74.0(62.9)	73.7(62.7)
中3（19名）	国語	数学	理科	全体
本町（北海道）	74.0(68.6)	50.0(48.9)	54.0(49.0)	59.3(55.5)

【評価と課題】町全体としては、おおむね北海道の平均を上回っている。各校において、調査結果を基に自校分析し、個に応じた指導及び授業改善の充実を図り、継続的な学習習慣を促すことが課題である。

・各種検定受検料の助成実績（上段：1回目、下段2回目）

漢字	受検者数	受検率	合格者数	合格率
小学校	51人	53.1%	45人	88.2%
	1人	1.0%	1人	100.0%
中学校	37人	69.8%	14人	37.8%
	3人	5.7%	0人	0.0%

数学	受検者数	受検率	合格者数	合格率
小学校	15人	15.6%	14人	93.3%
	2人	2.1%	1人	50.0%
中学校	28人	52.8%	10人	35.7%
	1人	1.9%	0人	0.0%

英語	受検者数	受検率	合格者数	合格率
小学校	2人	2.1%	2人	100.0%
	0人			
中学校	39人	73.6%	30人	76.9%
	11人	20.8%	8人	72.7%

【評価と課題】学習意欲の向上と学びの習慣付けを目的として、全児童生徒を対象に漢字、算数（数学）、英語検定の各種検定受検料の助成を行ってきたが、4年度より、1回目に合格した者の2回目の受検についても助成を行なえるように改正した。

今後も学校を通じた積極的なPRや資格の取得を促し、個々の自信と挑戦心に繋げるため、継続した助成が必要不可欠であり、1回目はもとより2回目へのチャレンジを促せるようにすることが課題である。

(2) 学習意欲の向上及び学びの習慣付け

- ・ I C T機器を活用した授業及び学習の実施
- ・ 一人一台端末、A I教材アプリ（キュビナ）を活用した家庭学習の充実
- ・ 学びを止めない、学びの保障（オンライン授業等）の充実
- ・ キュビナを活用した授業づくりの実践
- ・ デジタル教科書の一層の活用
- ・ 義務教育教材等備品整備
- ・ 学校図書や新聞の整備

【評価と課題】 I C T機器の活用により、教師と児童生徒間でのコミュニケーションや子どもたち同志での学習内容の共有により、授業への興味・関心、理解促進に繋がっている。

タブレットに備わっている様々な機能やアプリを最大限に活用していくことやデジタル教科書の一層の活用が課題となっている。と同時に、教員のスキルアップや I C Tを使った研修が必至である。

- ・ 家庭学習の習慣化の推進

【評価と課題】 タブレットの家庭への持ち帰りによる家庭学習の充実が図られており、キュビナによる基礎基本能力や学習習慣の定着化に繋がっている。

学年プラス10分など取組時間を目安に、家庭と連携、協力し、さらなる学習意欲の向上及び継続的な学習習慣の定着に努める必要がある。

(3) 国際理解教育の推進

- ・ 外国語指導助手（A L T）の継続配置

【評価と課題】 8月より、新たなA L Tが赴任。スキルが高く、学校や児童生徒にもよく馴染んでいるため、その能力を最大限発揮できるような取組が必要である。小学生段階での英語に対する親近感をより持てるよう、「コミュニケーション能力の向上」に取り組むことが大切である。

2 生涯を通じ個性が輝き豊かさを実現できる教育と学習

あらゆる環境の変化に対応しながら地域住民同士が共に学び合い、教え合う相互学習を通じ、教養の向上、健康の増進、人と人とのつながりを生みだすことが大切であると捉え、地域づくりの実践に結びつくことができるような生涯学習の推進を重点とする。

① 社会で生きる「知・徳・体」の育成

児童生徒に対して、自他の生命や人権を尊重する心、思いやりの心、規範意識や公德心、自然を愛する心など、豊かな心と人生の基盤となる健康でたくましい体を育む教育の推進に努めることが重要である。

(1) 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の取組と体制の推進

学校・家庭・地域が連携して、社会全体で子どもたちを健やかに育むことが重要であり、学校の教育活動や学校運営の状況を積極的に保護者や地域に情報提供するなど、開かれた学校づくりに努める。鴛泊地区（12/20、3/1）、鬼脇地区（12/21、3/2）で2回開催した。

・学校支援地域本部事業の推進

部活動支援（バドミントン、卓球）

授業支援（講師・ボランティア派遣）

柔道、ダンス、登山、スキー、総合学習（歴史、郷土芸能、自然など）、森林・林業体験学習、観光学習、福祉学習、本の読み聞かせ、小学校1年生下校指導、議会学習

【評価と課題】学校の要望に応じて、地域が学校運営へ参画できる機会として、支援本部（社会教育係）が仲介しながら、進めてきた取組であり一定の成果を挙げてきた。

今後も「地域ぐるみでの子育て」に焦点を当て、要望に応じた人材の発掘や交流を図り、子どもと地域の大人との関わりを増やすことが重要である。

さらに、部活動の地域移行の問題なども含めて、継続して取り組めるシステムづくりが課題となっている。

・学校評価の積極的な取組の推進

学期末ごとの定期的なアンケート調査

学校ホームページの活用

【評価と課題】アンケート調査等による学校評価の自己点検の充実を図り、課題の整理と改善策に取り組むことが今後も必要である。

地域に開かれた学校づくりの一環として、学校ホームページを媒体とした定期的な情報発信やフォームの活用は、教員の働き方改革やペーパーレスにも寄与しており、かつ各家庭にとっても利便性の向上につながっている。

(2) 防災や防犯、交通安全教育の実施

火災や自然災害（地震・津波）を想定した、シミュレーションや避難訓練の充実を図り、児童生徒に高い防災意識を持たせることが大切である。また、交通事故についての安全教育と不審者や変質者から身を守るための安全教育や防犯対策が極めて重要であり、安心して学べる場と安全な教育環境の整備・充実の確保に努める。

- ・ 緊急時を想定した避難訓練の実施
- ・ 1日防災学校の実施
利尻小・鬼脇中学校（9/8）消防署
駕泊小学校（9/15）消防署・警察署（応急処置）
駕泊中学校（9/16）稚内气象台・町防災担当（新聞紙スリッパづくり・段ボールベッド組立）
- ・ 交通安全指導等の徹底
青空教室等の開催
- ・ 登下校時の安全確保、防災及び防犯対策
通学路の安全確保のための関係機関との情報共有
Jアラートや気象警報発令時における対応マニュアルの確認
保護者への「安心安全メール」を活用した迅速な情報発信

【評価と課題】各学校における防災教育は、危機管理マニュアルに基づいた指導の徹底を行っている。町内外の関係機関との連携強化を図り、事件・事故から子どもたちを守る取組を継続して実施することが重要であり、児童生徒の安全確保に当っては、情報の共有を図り、常に危機管理意識をもって指導に努めることが大切である。

今後も、災害は身近なものであるという認識を常に心がけられるよう、授業の必須科目として毎年すべての学校で防災教育を実施するよう取り組むことが課題である。

(3) 心のケア、いじめや不登校の未然防止と早期対応

いじめ防止基本方針に基づいた組織的な対応によるアプローチの徹底

- ・ 子どもの心に響く道徳教育などを通じて、さまざまな価値観や自分をみつめる機会を醸成する。

『食べ方は、食の道徳教育』と題し、食べることと自分の心と体の関係について考え、食を大切にしようという心を育てる」（フードディレクター 貫田桂一氏
11/21 駕中・駕小）

- ・ 北海道のスクールカウンセラー派遣事業による学校派遣 10/3
- ・ 奉仕、体験活動等、町内行事やボランティア活動への積極的参加

【評価と課題】各学校においては、保護者や児童生徒との面談や話し合い、定期的なアンケートを行うなど、問題の早期発見、早期対応、早期解決に向けた取組を継続して行っている。

しかしながら、いじめや不登校はいつでもどこでも起こることを念頭に、常に複数の目で見守り情報を共有することで、教職員全員が児童生徒の担任であるという意識をもちながら、組織的な指導・支援を行う取組を充実強化することが、再発防止につながる取組として重要である。

また、児童生徒および教員・保護者の心のケアを行なうスクールカウンセラー派遣制度の活用については、喫緊の課題としてとらえ重点的に取り組んでいく必要がある。

(4) 健やかな体の育成と体力、運動能力の向上

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実施

小5 (21名)	男子	女子
本町(北海道)	54(49)	50(49)
中2 (16名)	男子	女子
本町(北海道)	48(48)	50(47)

*全国を50としたときの数値

【種目】

握力 上体起こし
長座体前屈 反復横とび
20mシャトルラン
50m走 立ち幅とび
ソフトボール投げ

・町内、管内中体連部活動

【評価と課題】調査結果からはいずれも北海道平均を上回っている。現状を自校分析などにより把握するとともに、地域行事等と連携し体力・運動能力向上に努めることが重要である。

・食育の推進

・栄養教諭の学校配置（利尻小学校への配置）

栄養・食育指導（各校巡回指導）

【評価と課題】栄養教諭を中心とした食育指導により、元気な体づくりと食習慣、食生活の大切さを理解させることが図られている。今後も各校巡回による食育授業を通じての啓発が必要である。

・各種健診の実施及び保健指導の充実

・学校保健安全法に基づく各種健診等の実施

・へき地児童生徒巡回検診事業

【評価と課題】児童生徒の健康の保持増進を図るため適切な健康相談及び健康診断が実施されている。今後も適切な指導により、児童生徒の健康管理や疾病の予防・早期発見に努める必要がある。

② ふるさとを支え魅力ある学びの提供

第3期利尻富士町生涯学習推進計画（2021～2030年）に謳われているとおり、「ふるさとを支える、人の魅力があふれるまち」をスローガンに住民一人ひとりの学習活動をすることを基本に、地域の良さや可能性を最大限に生かし、相互のつながりを深め、地域づくりを進めることが重要である。

（1）文化・芸術活動の推進

芸術・文化は、人々の創造性を広げ、感動や生きる喜びをもたらし、豊かな人生を送る上での大きな力となり地域活性化の基盤となることから、公民館等を中心にしてその推進に努める。

- ・ 公民館教室関係
 - ・ 南浜獅子神楽子ども教室
教室 8月～10月（9回、利小12名）、発表会 11/12（保護者のみ観覧）
 - ・ 母の日に贈るカーネーション作り教室
4/18 公民館、4/23 りぷら（13名）
 - ・ そば打ち教室 12/10 りぷら（21名）
 - ・ しめ飾り作り教室 12/18 公民館・りぷら（10名）

【評価と課題】 鬼脇地区に古くから継承される「南浜獅子神楽」の技術伝承と由来を理解し、実技の体験指導を通して、礼儀作法の基礎を習得、豊かな人間性・健全な精神等社会性を養う活動が行われている。保存会との連携により、伝統文化の継承とふるさと教育としても継続した取組が重要である。

ものづくりに関わる教室については、時代に即した内容やニーズの把握などが課題である。

- ・ 読書活動の推進
 - ・ 「利尻富士町子ども読書プラン」の推進（令和4年度～令和8年度）
 - ・ 「読み聞かせボランティア」の支援
 - ・ 第36回読書感想文コンクールの実施（応募総数 小学生77点・中学生53点）
 - ・ ブックスタート事業

【評価と課題】 本に親しむ機会づくりとして、地域の読書ボランティアの活動による小学校低学年への読み聞かせを継続的に実施している。読書ボランティアサークル「りっぷの森」による朝読書の時間を利用した読み聞かせ活動（鴛泊小1・2年生）。活動が長期にわたるため、より多くのボランティアを取り込むことが課題である。

ブックスタートは、乳幼児期から絵本に触れる環境づくりに取り組む事業であり、今後も保健師等との連携を図りながら継続する必要がある。

- ・利尻富士町文化協会への活動支援

利尻富士町文化協会補助金 360 千円

総合開会式 ＊コロナのため中止、一般作品展 11/12-13 公民館

一般・子ども作品展 11/20-23 りぷら

【評価と課題】協会加盟団体へは、今後も文化活動の活性化を図るため、支援の継続が必要である。児童生徒の豊かな感性や個性を育むとともに、芸術文化を理解し大切にする心を養う劇団四季の鑑賞機会については次年度以降の再開が望まれる。

（２）青少年の健全育成

青少年が個性や能力を伸ばし、豊かな人間性や社会性などを兼ね備え、心身ともにたくましく育つためには、学校・家庭・地域が一体となり、社会全体で青少年の成長を支え守り育てて行くことが大切である。

- ・利尻富士町青少年健全育成町民会議等

親子ふれあい歩こう会 ＊悪天候のため中止

夏休みチャレンジ教室 8/8～11 参加者 20 名、教育大旭川校 7 名、ふじっ子 5 名

冬休み体験教室 1/12～13 参加者 5 名、ボランティア中学生 2 名・高校生 3 名

【評価と課題】次代を担う青少年が、自他共にかげがえのない存在であることを認識し、また社会の一員であることを自覚し、自ら進んで社会参加できるよう、家庭・学校・地域が連携して青少年をとりまく環境の整備を行い、心身共に健康で、未来に希望をもつ青少年の育成を推進している。

- ・放課後子ども教室推進事業の推進

平日放課後子ども教室 鴛泊 38 名登録（209 日開催）、鬼脇 5 名登録（13 日開催）

水泳教室 54 名

バドミントン教室 鴛泊 4 名、鬼脇 9 名

カルタ教室 7 名

【評価と課題】これまで保護者の要望により、放課後や週末に子どもたちが、地域社会の中で安全で安心して過ごせる活動拠点（居場所）が提供されたきた。「平日放課後子ども教室」をはじめ、水泳やバドミントンなどは地域の指導者あつての事業展開であり、一層の指導体制の強化・整備を図り継続することが必要である。

- ・ふるさと教育の充実

- ・利尻島上空 HAC 遊覧飛行（5/27、町内小学校 6 年生）

【評価と課題】ふるさとに愛着や誇りを持てる人材育成の推進が図られ、今後も継続した取組が必要である。対象人数の減少や座席数の増加により、利尻町も含めた同日開催などを視野に入れることや遊覧飛行にとらわれない事業の模索なども課題である。

(3) 健康づくり・スポーツ活動の推進

スポーツは、人格の形成や体力の向上、心身の健康保持増進に寄与するとともに、私たちに多くの夢・感動・楽しみを与え、活力に満ちた社会を形成するうえで大切な役割を果たしている。町民だれもが、それぞれの体力や年齢、目的に応じて気軽にスポーツに楽しむことができる環境整備を図る。

- ・ 体育、スポーツ団体への助成

- ・ 各種団体への助成、活動支援

利尻富士町体育協会補助金 350 千円

スポーツ・文化活動育成補助金 600 千円

- ・ 各種スポーツ大会、イベントへの支援

- ・ 主催、後援などを行った主な事業

教育長杯ミニバレー大会 5/29

第 20 回利尻島一周悠遊覧人G 6/4-5

第 32 回利尻島一周ふれあいサイクリング 8/27-28

さわやか駅伝大会 9/11

利礼六地区親睦野球大会 9/17-18 (利尻富士町)

教育長杯パークゴルフ大会 鬼脇 9/25、駕泊 10/2

町民スキー大会 2/12 駕泊スキー場

【中止となった事業】

わんぱくマラソン大会 *参加人数不足のため中止

雪ん子広場・りしり寒飲まつり *コロナの影響により中止

【評価と課題】生涯スポーツの振興、活動推進、指導者の育成、各スポーツ関係団体との連携を図るため、助成を行っている。各団体においては、指導者育成の取組が重要であり、研修会等を通じて指導力の強化及び資質向上が必要である。

年々人口が減少する中、今後も町民のニーズを捉え、各団体と協力、連携しながら生涯スポーツの普及と振興を図り、町民誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、気軽に参加、スポーツに親しむことができる環境整備や事業などへの参画が課題である。

- ・ 施設利用者数 *カッコ内は前年比

体育施設の適切かつ効率的な施設運営

総合体育館	3,127 人 (+686)	パークゴルフ場	1,468 人 (-310)
-------	----------------	---------	----------------

スキー場	2,147 人 (-215)	翔武館	511 人 (+106)
------	----------------	-----	--------------

地域青少年会館	765 人 (+244)	野球場	54 人 (+54)
---------	--------------	-----	------------

【評価と課題】施設の管理委託を含め、利用者の利便性や安全性を考慮しながら、各施設の整備と維持補修等を計画的に行い、適切な運営に努めることが重要である。

また、施設の老朽化や維持管理計画に沿って、学校体育館も含めた施設の統合や整備利活用について、利用者・団体と協議し方向性を見出すことが課題となっている。

(4) 文化財の収集・保存・継承

本町の歴史や伝統を伝える様々な文化財を大切に保護するとともに情報の発信に努めた。利尻富士町の文化遺産を生かした学び交流事業（北海道市町村振興協会いきいきふるさと推進事業助成金）により開催している。

- ・郷土資料の収集・調査の継続

主な収集資料 個人3件（船箆筒、写真機、古写真等）

北海道デジタルミュージアムへの資料登録 *右QRコード参照

モノクロフィルムデジタル化（平元正海氏撮影写真4,000点）



- ・出前講座や広報等による広報活動の推進

- ・学校授業等支援活動の実施（4回）

- ・郷土資料館の継続利用（入館者4,664名）

- ・展示普及事業

管内巡回展「北のコウモリ」6/11～7/10 カルチャーセンター 50名来場

利尻富士町の文化遺産を生かした学び交流事業活動展 1/21～2/19 鴛泊FT

- ・講座・普及事業

外来種防除会 7/18 北麓野営場 5名参加

夏休みチャレンジ教室発掘体験 8/10 ペシ岬遺跡

石崎海底電線陸揚庫現地説明会 10/23 16名参加

第7回フィールド発表会 11/22 りぷら 9名参加

にっぽん「四極」陸揚庫会議@根室 11/26 web (YouTube 配信あり)

- ・調査研究事業

石崎海底電線陸揚庫測量（委託）

利尻神社下遺跡詳細分布調査 10/29-31

【評価と課題】今後も情報発信を図り、町内外にある資料の積極的な調査、収集を行う。収集した資料については、今後もデジタルミュージアムの制度を最大限活用し、教育目的などの汎用データ（著作権のあるものは制限）として、利便性を向上させることが課題である。

また、陸揚庫や遺跡調査については、島外の研究者や大学などとも連携し、付加価値を高めることで、住民の興味、関心を高める活動を行っていくことが課題にある。

文化財は、町の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、かつ将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、今後も、その保存が適切に行われることが重要である。

③ 地域の共生と多様な社会への対応

(1) 特別支援教育の充実

- ・ 駕泊小学校（3学級）、利尻小学校（2学級）、駕泊中学校（1学級） 設置
- ・ 特別支援教育支援員の配置（駕小2人、利小1人）
- ・ 稚内養護学校のパートナー・ティーチャー派遣の活用
- ・ 教育支援委員会を核とした、特別支援連携協議会、要保護児童対策地域協議会、各種相談体制などとの情報共有や連携（令和4年度発達障がい支援成果普及事業連携推進地域選定による取組）

【評価と課題】全校的な支援体制の充実を図るため、今後も教職員の専門性の向上を図り、一人ひとりの教育的ニーズに対応できるよう、特別支援教育を推進する必要がある。

実態に即した支援を継続するため、教材やパートナー・ティーチャーの積極的な活用を図ることができている。

各協議会の枠を越えた情報の共有や体制の協議など、学校・家庭・地域・関係団体と連携し、全町的な課題として取り組むことが重要である。

(2) 保護者等への教育支援

- ・ 特別支援学校等通学費助成制度の新設（一律50千円）
- ・ 準要保護扶助費の状況
小学校1名 中学校6名
- ・ 育英資金貸与の状況
継続5名（大学3名、専門学校1名、高校1名）
新規2名（大学・高校各1名）
- ・ 学校給食費の無償化
コロナ禍による子育て支援として、6月から無償化

【評価と課題】経済的に困窮する児童生徒や保護者への就学援助であり、継続して実施することが必要である。

学業優秀であるが経済的理由により就学困難な生徒に対する就学資金貸付制度であり、有為な人材育成のため、今後も継続した取組が重要である。

一方で、本資金は貸与であることを理解いただき、徴収事務に支障をきたさないよう努める。

(3) 利尻高校への支援

- ・ 各種補助金
商業クラブ活動、体育文化後援会活動、模擬試験
ふるさと教育（全島一周、利尻山登山、礼文島トレッキング）
- ・ 島内事業所見学会の受入（高1）
- ・ 総合的な探究の時間（学習成果発表会）

【評価と課題】6年度からの一間口減（普通科のみ）という再編がなされたが島内唯一の高校として、学習面や卒業後の進路に対するサポートは、充実化が図られている。

小中学校や保護者向け説明会の開催など、PR活動も含めて、中高間の連携や高校生のイベント等への参画などを通じて、地域との一層の連携が重要である。